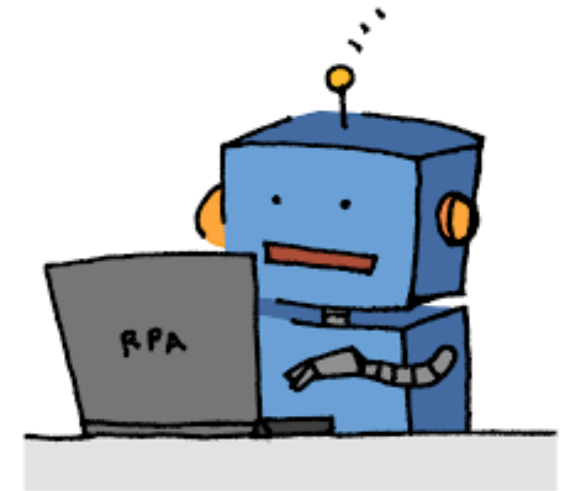


RPA すぐに役立つ！！ 実践マニュアル



WinActorはNTTアドバンステクノロジーの登録商標です。

すぐに役立つ知識を学ぶ→実践する



録画モードの優先順位について（IE？エミュレーション？）

IEモード

Internet Exploreで操作する際に使用。画面の拡大率の違いをものともせず、システムの読み込みが終わるのを待ち、次の作業に移るなど様々な面で融通が利く。

エミュレーションモード

キー操作やマウス操作等の記録ができるが、画面の拡大率が違うと機能せず、システムの読み込み時間をわざわざ待ったりしないので、必要に応じて手動で待機時間を操作の合間に挟む必要があるなどあまり融通が利かない。

録画モードの種類	優先度
IE / Chrome / イベント	高
エミュレーション	低



可能な限り優先度の高いモードを使うようにすると、精度の高いシナリオができる！



シナリオの速度調整について



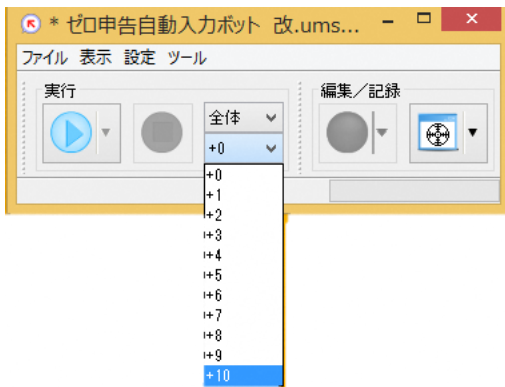
速度調整タブ

0~10の11種類から選ぶことができ、「選んだ数字」× 0.1秒を全ての命令の間に挟むことができる（具体例は下記のとおり）

基本は「+0」でOKだが・・・

- ・シナリオの試運転をする時にゆっくり動かす
- ・シナリオの紹介をする時にゆっくり動かす
- ・読込が長いシナリオをゆっくり動かす
- ・どの命令でエラーが出たのか特定する時にゆっくり動かす

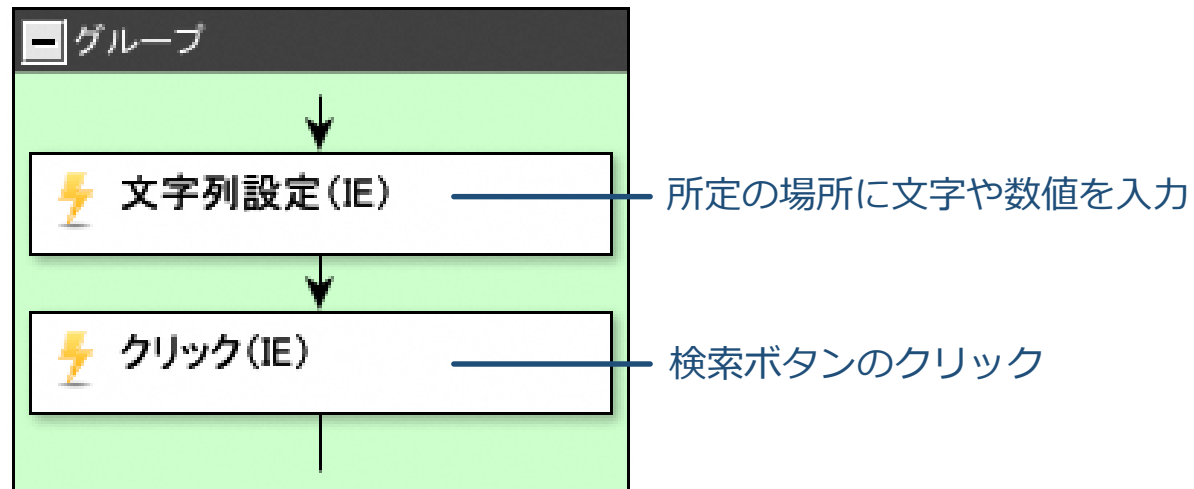
などの利用ができる



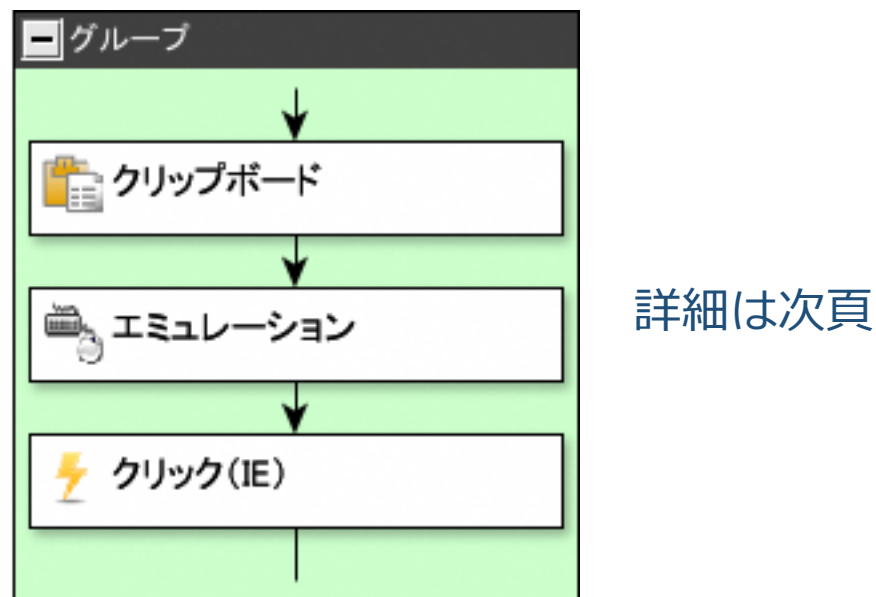
数字の入力ができない時の対処法について 1

RPAの独自ルール? として数値を入力した際に自動的に変換されてしまうもの
(502 → R2、1000 → 1,000) は通常とは別の下記入力方法を使わないと入力できない

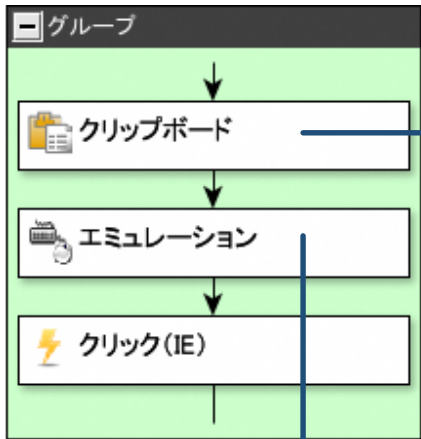
▼通常の文字や数値の入力シナリオ



▼変換される数値の入力シナリオ



数字の入力ができない時の対処法について 2



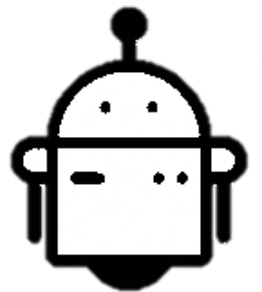
クリップボードの中の「クリップボードへ値を設定」を選択すると、任意の数値をRPA内部にコピーすることができる。

左図では、取り込んだエクセル上の生年月日欄に入力されている数値を「Ctrl+C」している状態

なぜこのようなルールなのかは考えてもわからないので、こういうものだと諦めて暗記してしまおう

エミュレーションで記録されている操作は

1. システム上の生年月日の入力欄をクリック
2. 「Ctrl+V」を押す
→ 先ほどのクリップボードでコピーした数値を貼り付け
3. 「Tabキー」を押す
→ この操作を入れないと、なぜかコピーした数値が反映されない
→ 関係ない箇所のクリックなどでも可



覚えておくと便利な機能「変数値設定」について 基本編

The screenshot displays the software's main interface. On the left is a tree view of nodes, with '変数値設定' (Variable Value Setting) highlighted and marked with 'ココ!!'. The main area shows a flowchart with a 'グループ' (Group) containing '変数値設定', labeled '一連の作業' (A series of tasks). Below the flowchart is a 'プロパティ - 変数値設定' (Property - Variable Value Setting) dialog box. The dialog has fields for '名前' (Name) set to '変数値設定', '変数名' (Variable Name) set to '処理結果' (Processing Result), and '値' (Value) set to '済' (Completed). An Excel spreadsheet is also visible, showing a table with columns 'no', '宛名番号' (Recipient Number), and '処理結果' (Processing Result). The spreadsheet data is as follows:

no	宛名番号	処理結果
1	17733133	
2	17741454	
3	17741462	
4	17741470	
5	17742299	
6	17742302	
7	17742361	
8	40005790	

左図シナリオの流れ

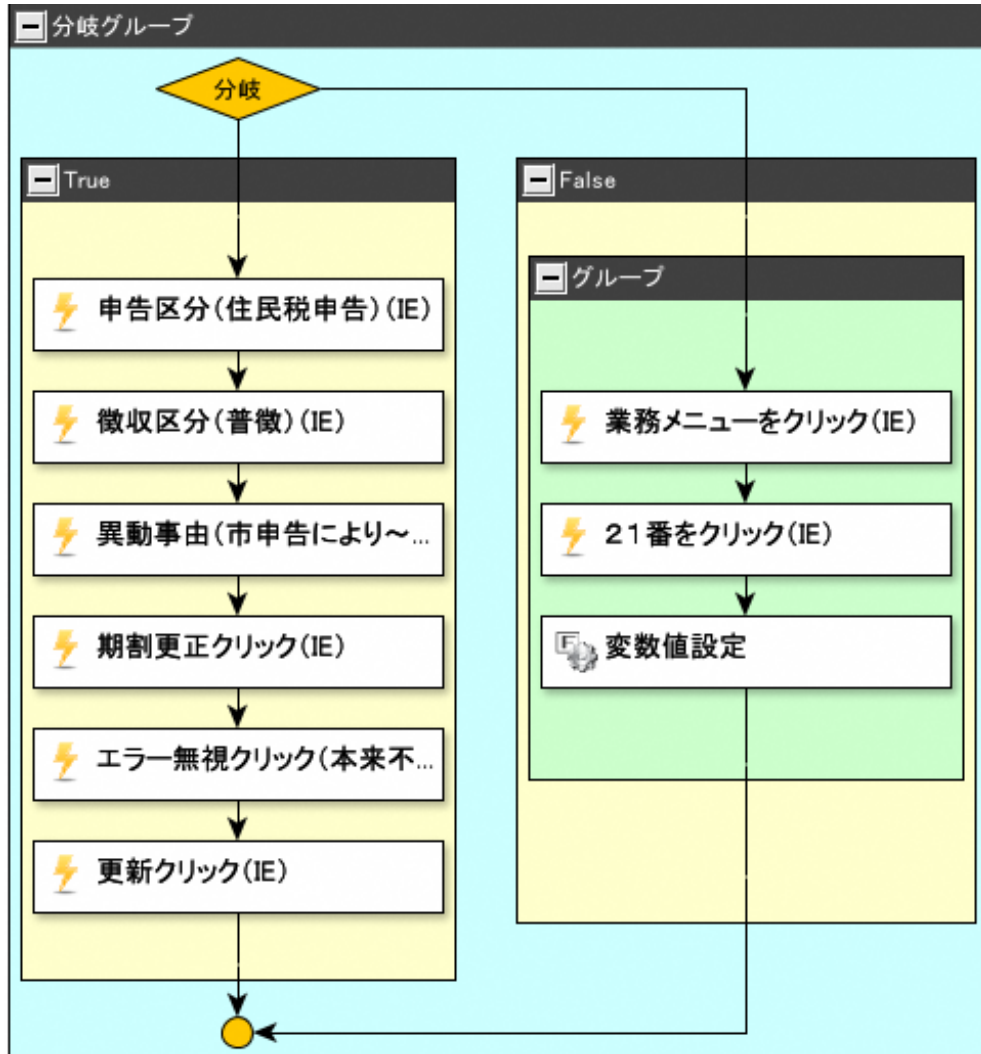
1. 一連の作業をする
2. 処理が完了した宛名番号の横の処理結果欄に「済」の文字を入力
3. 以下繰り返し

「変数値設定」を使う手順（具体例）

1. フロチャート左の「変数値設定」をシナリオに挿入
2. 「変数値設定」の中身を入力
 - 変数名：入力したい欄のタイトル部分を入力（今回は「処理結果」）
 - 値：入力したい欄に入れる単語や文章を入力（今回は「済」）

一連の作業の後にエクセルの宛名番号の横に「済」を入力してくれるシナリオが完成

覚えておくと便利な機能「変数値設定」について 分岐編



左図シナリオの流れ

分岐させるにあたり任意の条件式を設定

→ 「True」 の時は左へ分岐。通常の処理を実施

→ 「False」 の時は右へ分岐。処理せずエクセルに「未処理」などの文言を入力

その結果・・・

どのデータが「処理済」で、

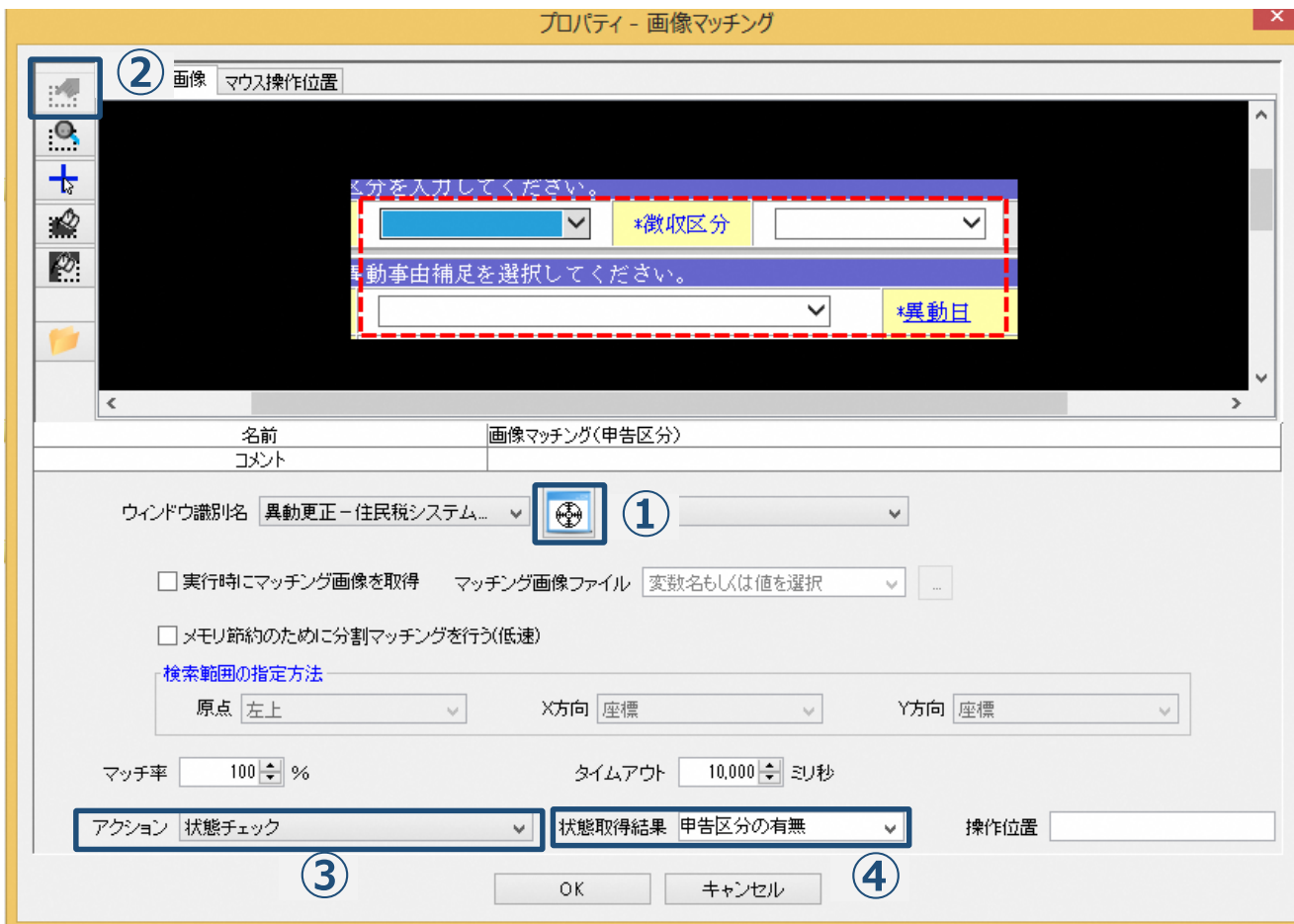
どのデータが「未処理」なのかが一目でわかるようになる！！

※分岐の条件式の設定例

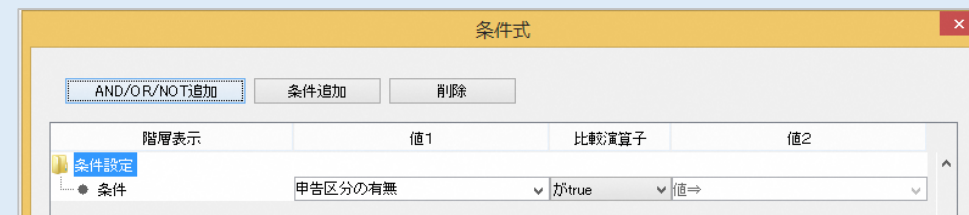
- ・ ○○年××月以降のデータのみ処理
- ・ △△円以上の金額のデータのみ処理
- ・ 特定の画像が表示された時のみ処理（次頁で紹介）

・・・など

覚えておくと便利な機能「変数値設定」について 画像マッチング編



1. 判定に使用したいウィンドウを①の「的ボタン」で指定
2. 判定に使用したい箇所を②の「指ボタン」で指定（今回は指定の箇所が空欄であれば、入力を行うというシナリオを作成）
3. アクションの項目で③の「状態チェック」を選択
4. ④の状態取得結果に「変数名」を入力（どんな名前でもOKだが、他の人が見てもわかるように今回は「申告区分の有無」と入力）
5. 分岐の条件式に画像マッチングで設定した変数（今回は「申告区分の有無」）が「True」の時はxxという条件式を設定



特定箇所の状況次第で作業が変わるシナリオの完成！

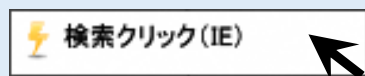
その他の小ネタ 1

Winactorでは様々なショートカットが使用可能！！

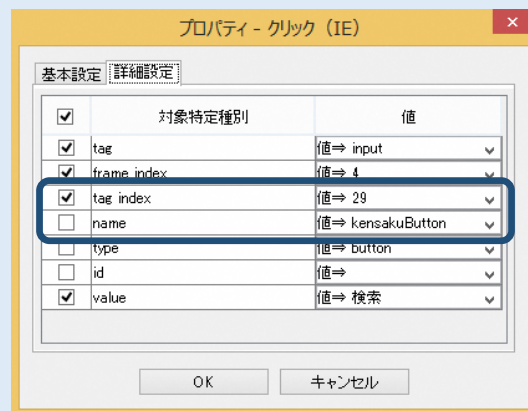
- Ctrl + C : コピー
- Ctrl + V : 貼り付け
- Ctrl + X : 切り取り
- Ctrl + Z : 戻る
- Ctrl + Y : やり直し
- Ctrl + Alt + U : シナリオ停止
- Ctrl + Alt + M : 一時停止
- F5 : シナリオ実行

Winactorが予想外のエラーを出さないために！

1. 任意の命令をダブルクリック



2. 詳細設定の画面を確認



3. tag indexのチェックを外し、nameのチェックを入れる

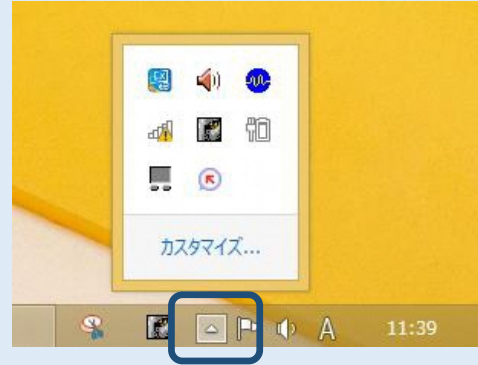


※全ての命令に対してこの作業をしておくにより安全なシナリオが作れる
この作業をする意味については少々ややこしいのでここでは割愛

その他の小ネタ 2

Winactorが画面から消えた!

ここにいるかも・・・?



メイン画面を最小化すると、ここに収納される!

ステップ実行と部分実行

▼ステップ実行

- ・メイン画面 → 表示タブ → ブレイクポイント一覧から実行
- or
- ・ F 7 → F 8 により実行が可能

ボタンを押すたびに命令を一つずつ実行させることができる!

▼部分実行

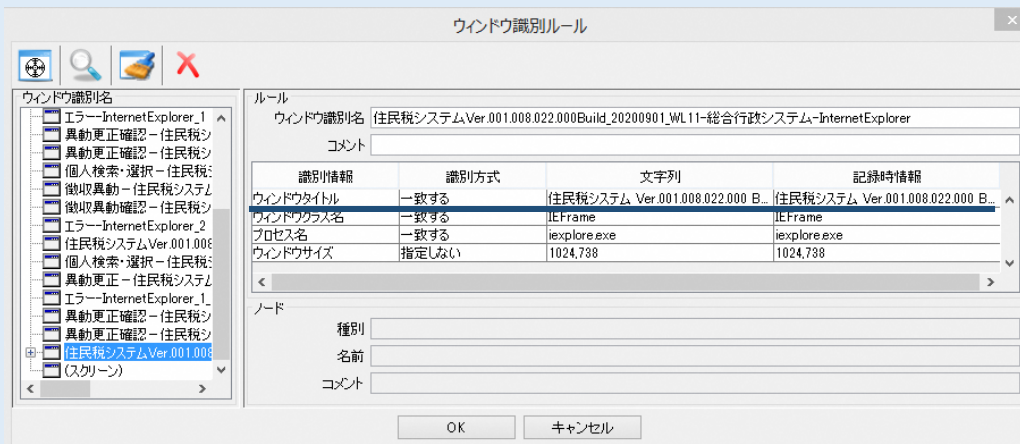
- ・右クリック + 「部分実行」

任意の命令を1つだけ実行させることができる!

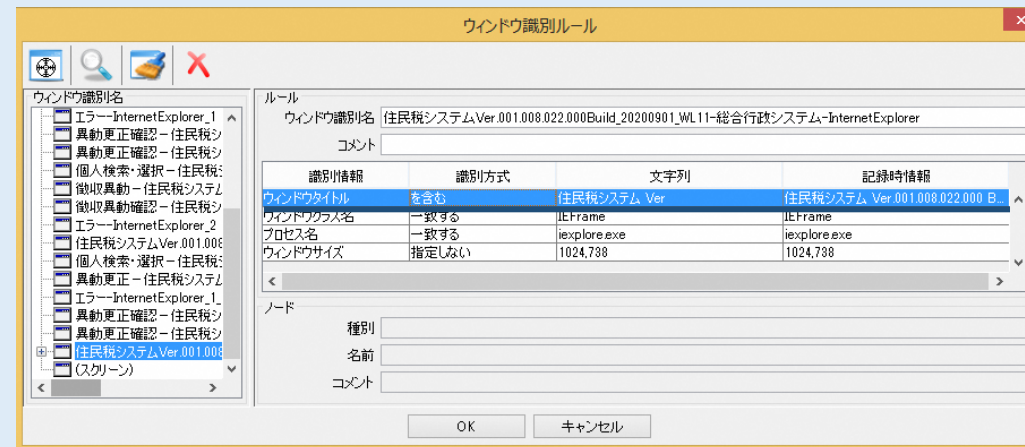
シナリオの動きを1つ1つ丁寧にチェックしていくことが可能!

その他の小ネタ 3

予想外のエラーを防止！ウィンドウ識別ルールについて



Before



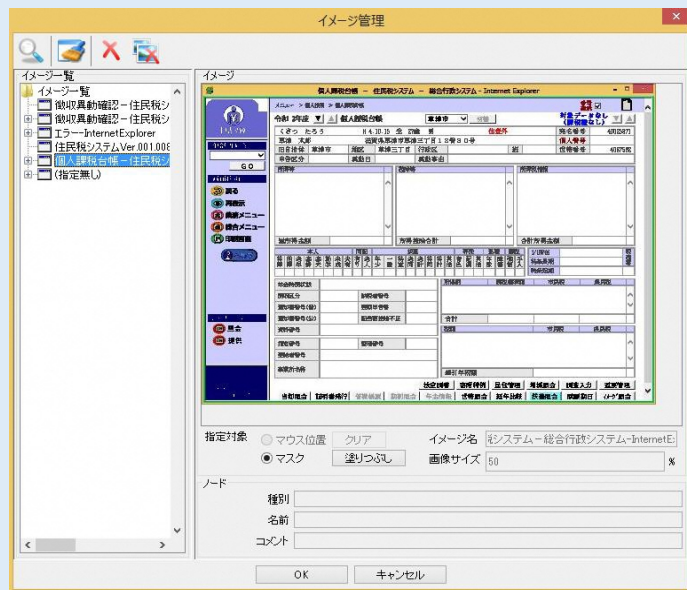
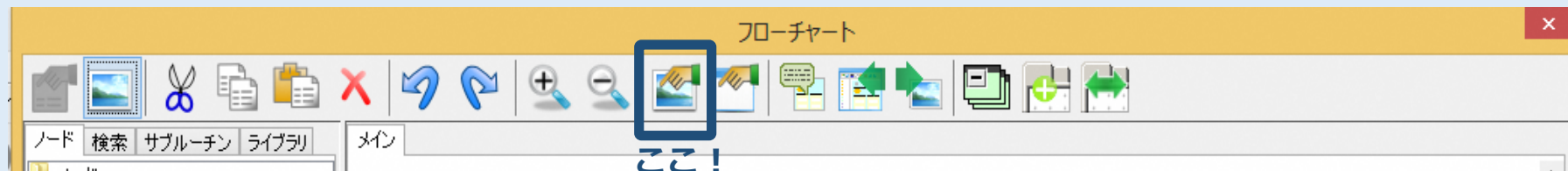
After

下線部について、Winactorが操作するウィンドウを識別する際に、「Before」のままだと、識別ウィンドウ名にバージョン番号が載っているため、システムが新しいバージョンに変わると、操作するウィンドウの名称が一致しなくなり、シナリオが正常に動かなくなる。

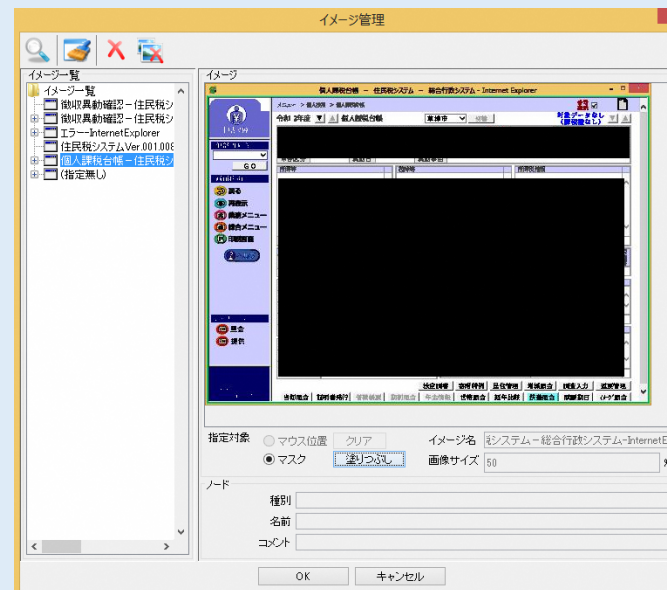
そこで、「After」のようにVer以下の番号を削除し、識別方式を「一致する」⇒「を含む」に変更することで、バージョンアップをしてもウィンドウの名称が一致しないというエラーを防ぐことができる。これはシナリオ作成後に確認が必須なので注意！！

その他の小ネタ 4

意図しない個人情報の流出を防ぐ！イメージ管理について



Before



After

イメージ管理の画面内にはシナリオを作成した際の画像が保存されているため、意図せずして個人情報の流出が起こらないように、上図のように個人情報にあたる箇所を塗りつぶすor「xボタン」でイメージ画像そのものを削除しておく必要がある。（イメージ画像を削除してもシナリオの実行には特に影響はないが、どのボタンを押しているのかを視覚的に確認できなくなる）

おわり

R P A化する業務の選定基準は以下の3点が重要です！

①業務量が多い ②単調で人間の判断が不要 ③作業の分岐が少なめ

しかし、例えば上記内容を満たさなくても全体作業の大部分を占めるAの作業はR P Aで行い、その他のB, C, D, E, Fの作業は人の手でやるなど、工夫次第で対象業務を広げることは可能です！

そうした柔軟さを持ち、「最低限マニュアル」と「実践マニュアル」をマスターすれば、あなたはすでに様々なシナリオの作成が可能になっているはずです！そして、あとは実践あるのみです！